

米CPIは依然高水準、大幅利上げ継続へ

ポイント① コアCPIは2カ月連続で伸びが加速

10月13日に発表された9月の米CPI（消費者物価指数）は米インフレが依然として高水準であることを示す内容となりました。米CPI総合は前年同月比で8.2%上昇と、3カ月連続で伸びは鈍化したものの、依然高水準となりました。一方、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは同6.6%上昇と、2カ月連続で伸びが加速しました。

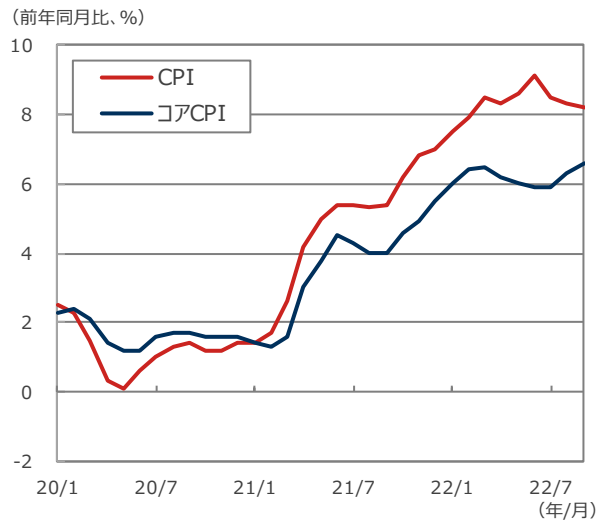
ポイント② インフレ鎮静化を遅らせるサービス

米インフレ動向を項目別に前年同月比で見ると、ガソリン価格の伸びが鈍化したことからエネルギーは19.8%上昇、食品は11.2%上昇、中古車価格の伸びが鈍化したことで財は6.6%上昇と、エネルギー、食品、財部門は、全て8月と比べて伸びが鈍化しました。一方、サービスは6.7%上昇と8月と比べて伸びが加速、家賃を中心とする住居費の他、医療費など全般的に価格上昇が広がりました。サービスはCPIの構成要素の半分以上を占め、寄与度が大きく、また家賃や医療費は一度上昇すると下がりにくいことから、インフレ鎮静化を遅らせています。

ポイント③ 11月も大幅利上げ継続の可能性

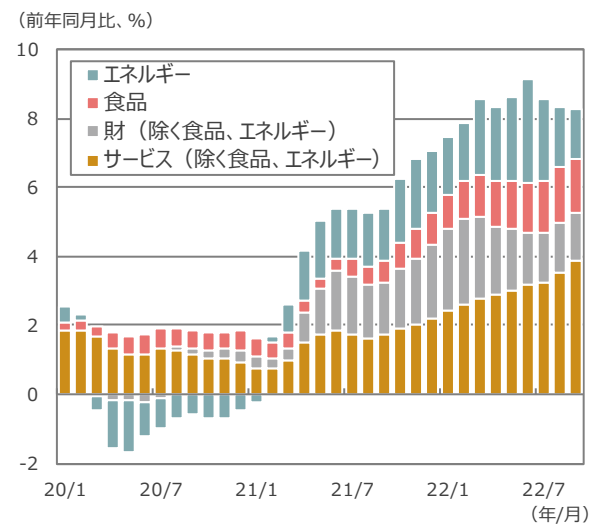
労働需給のひっ迫から賃金上昇率が高いことや、CPIの高止まりを受け、FRB（米連邦準備制度理事会）は11月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で大幅利上げを継続すると見られます。更に12月も大幅利上げ継続かとの警戒感から、13日の外国為替市場で円安・米ドル高が加速し、一時1米ドル=147円台後半まで円が下落しました。また、利上げに敏感な米2年国債利回りは大幅上昇し、年初来の最高水準を更新しました。なお、米10年国債利回りは小幅上昇に留まり、米株式市場は大幅上昇しました。

米CPIの推移



期間：2020年1月～2022年9月、月次
 (注) コアCPIは食品、エネルギーを除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIの項目別寄与度の推移



期間：2020年1月～2022年9月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	10月24日	米製造業・サービス業PMI（購買担当者景気指数）（10月）
	11月2日	米金融政策発表